

いきもの広場

① イラガのまゆ



毒のトゲをもつ幼虫とは異なり、まゆや成虫はふれても平気。表面の独特な模様は、まゆによってひとつひとつ違います。

② ハラビロカマキリの卵のう

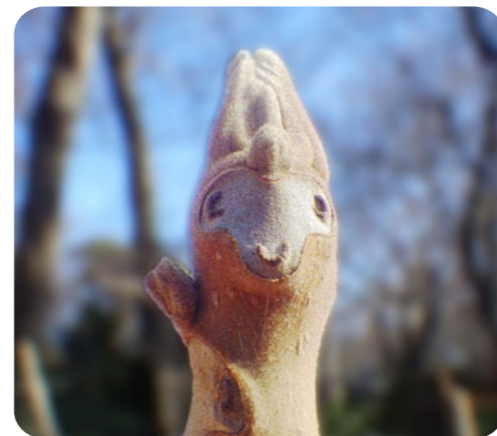


大きさは3cmほど。ツノのような突起(円内)がハラビロカマキリの卵のうの特徴です。

③ カブトムシの幼虫

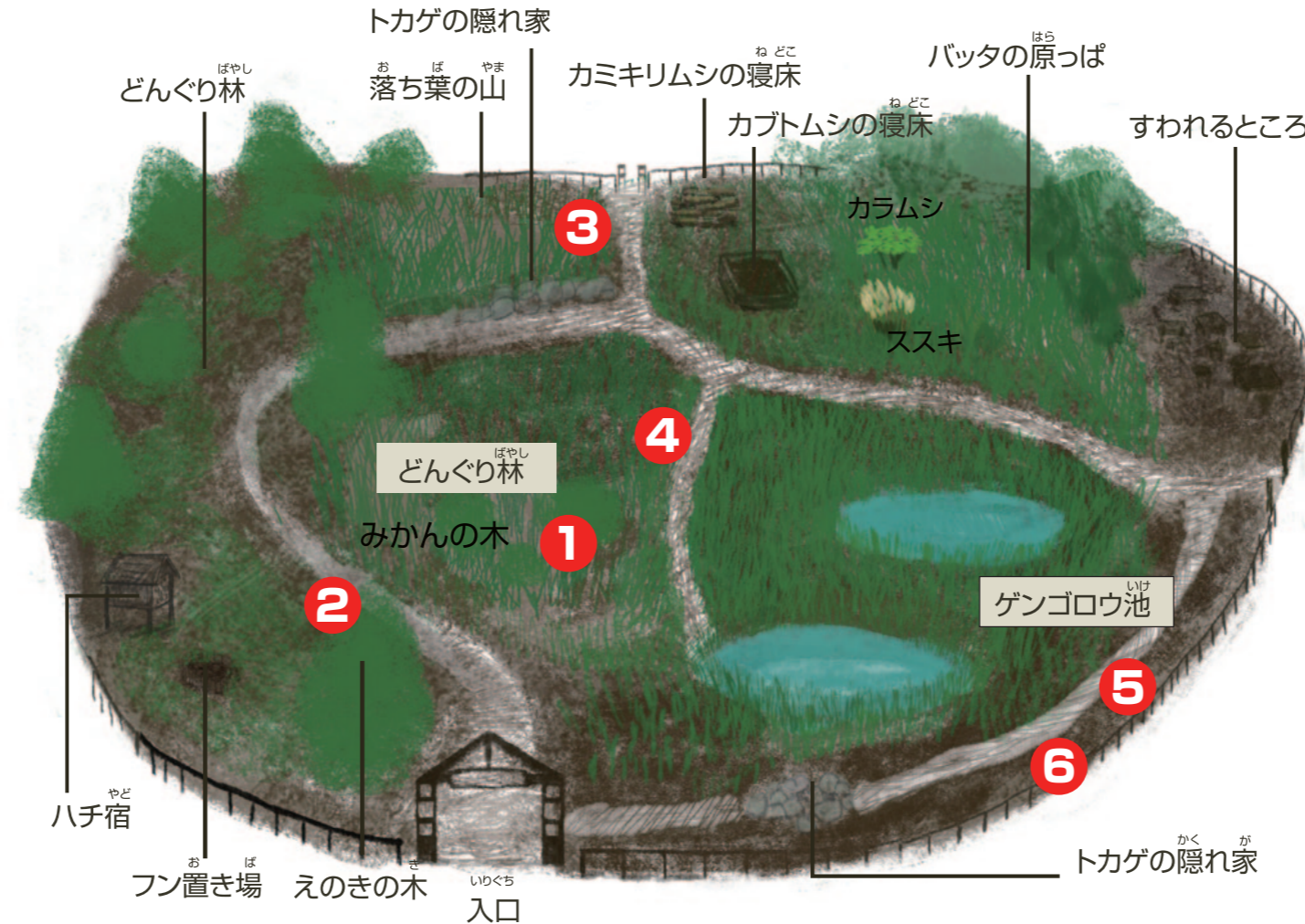


幼虫は夏の終わり～秋にかけて腐葉土を食べ、子供の手のひらほどの大きさの「3齢幼虫」に成長し、冬を越します。



④ オニグルミの冬芽

冬芽の様子は、樹木の種類を見分けるヒントになります。この冬芽は猿の顔のようです。さらに、同じ木でも冬芽によって様々な顔があります。



⑥ ゴマダラチョウの幼虫



落ち葉にくっついて冬を越します。大きなエノキの木の根元を探してみましょう。背中ツノのような突起が3対あるのが、ゴマダラチョウの幼虫の特徴です。

⑤ エサキモンキツノカメムシ



漢字名は「江崎紋黄角亀虫」。昆虫学者の江崎氏にちなんだ、背中に黄色い紋のあるツノカメムシ、という意味になります。

足元を見てみよう

越冬中のいきものは簡単には見つかりません。寒さをしのげる場所に隠れているからです。特に、落ち葉の下は色々ないきものに大人気。落ち葉をめくって観察した後は、元いた場所に戻すようにしましょう。

